中小企業診断士による 経営Q&A

自社をもっと知って

Q 新規顧客や取引先との商談、人材採用などで自社を説明する時に、会社の魅力や強みを分かりやすく見せたいのですがよいツールはないでしょうか。

A 会社を理解してもらうツールとして、『知的資産経営報告書』『経営デザインシート』の作成をお勧めします。ご興味がある事業者さまはもちろん、身近に関心を持ちそうな方がいましたらぜひご紹介いただき、上記ツールの作成をご検討ください。

知名度が低い中小企業が自社に興味を持ってもらい、正しく理解してもらうにはどうすれば良いか、会社が生き残っていくためには大変重要な課題です。会社案内、製品やサービスのパンフレット、会社のホームページなど会社を説明するツールはさまざまあります。

しかし、思ったとおりに理解してもらえないことも多いのではないでしょうか。大企業や有名企業は、知名度や強力なブランドがあるため、短時間で理解を得ることができます。しかしながら、知名度の低い中小企業が自社のことを正しく理解してもらうことは大変です。顧客・仕入先・金融機関・採用予定者などの関係者に、会社の魅力や強みをもっと的確に伝える方法はないでしょうか。

こうした中小企業の課題に対し、自社を語るツールとして『知的資産経営報告書』（経済産業省　知的財産政策室「知的資産経営ポータル」参照）を作成することをお勧めします。『知的資産経営報告書』は、会社のこれまでの歩みをストーリーとして構成して記載し、目に見えにくい資産「知的資産」を洗い出して、「強み」を分かりやすく見える化します。

さらに、会社の長期的な将来像を見せたい場合は『経営デザインシート』（内閣府　知的財産戦略推進事務局「経営をデザインする」参照）を合わせて作成することもお勧めです。『経営デザインシート』は、現在の会社の延長線で将来像を考えるのではなく、なりたい将来像を先に考え、そこから逆算して作成する点が特徴です。

これらのツールは、会社の姿を網羅的に見せることができますので、自社を知ってもらうためのセールスツールとして大変役に立ちます。実際に作成した中小企業の中には、「新規顧客が社内稟議に添付して理解が進み、早期に取引を開始できた」などの例もあります。

このように有効な『知的資産経営報告書』『経営デザインシート』ですが、手引きやマニュアルなどが用意されているものの、作成には相応の作業時間がかかります。多忙な中小企業の経営者がひとりで作成するのは大変かもしれません。

埼玉県中小企業診断協会では、知的資産経営の知識を持った中小企業診断士がお手伝いいたしますのでお気軽にお問い合わせください。

（中小企業診断士・本間浩一）

◇

連絡先・一般社団法人埼玉県中小企業診断協会（☎048・762・3350）

埼玉新聞　経済欄